

山行報告書

京都田辺山友会

報告者：後藤正道

山名	長野県・御嶽山 (3,067m)	山行名	H26 市民秋山登山		
ルート	御岳ロープウェイ・鹿の瀬登山口 (黒沢ルート) →飯森高原駅 (7合目 2,150m) →ピストン→御岳ロープウェイ・鹿の瀬登山口				
山行日	平成 26 年 9 月 27 日 (土) 28 (日)	天候	晴れ		
参加者	リーダー：後藤正道 サブリーダー：佐坂茂美 小川弘二、藤村敏幸、坪田 宏、中廣正典、津田憲由、鈴木正範、中田繁男、若林憲治、隅谷正行、峰岡邦博、上田昌宏、西川栄治、広瀬秀憲、石橋伸一、岡部貞雄、梅沢宗平、竹原順治、坪倉修二 (一般)、五十嵐哲雄 (一般) 秋山正子、姫島百合子、加藤幸子、徳田幸子、岡本綾子、江平愛子、竹原絹榮、上田秀子、倉光展子、伊藤典子、秋山香生里 (一般)				
【ルート概略図】		コースタイム			
御嶽山鹿の瀬登山口 (御嶽ロープウェイ) ↓ 飯森高原駅 (七合目 2,150m) ↓ 御嶽山の噴火のため下山 ↓ 鹿の瀬駅 (御嶽ロープウェイ) ↓ 三岳集落・黒沢館 (宿泊)		地名	時：分	地名	時：分
		御嶽山鹿の瀬駅	着 11:20 発 11:30	黒沢館	着 発 6:50
(二日目) 恵那山広河原登山口へ ↓ 広河原登山ルート 1,700m まで登る ↓ ピストン→広河原登山口へ下山		飯森高原駅	着 11:45 発 12:30	阿智村バス回転場	着 9:20 発 9:35
		鹿の瀬駅	着 12:45 発 13:15	恵那山・広河原登山口	着 10:35 発 10:45
		黒沢館 (泊)	着 14:00 発	恵那山の 1,700m 地点	着 12:20 発 12:45
			着 発	阿智村バス回転場	着 15:00 発 15:15

【山行報告】

今年の山行は、気候変動の大きななかで雨また雨、北アルプスの夏山集中登山も楽しいはず山行が曇りのち雨の天候に翻弄されて終わった。

昨年も、今年もすっきりしない気持ちでまた終わるのかと思っていたが、秋山トレーニングがはじまると状況が一変してきた。

伊吹山では、六合目避難小屋での昼食時間の 30 分の間に雨が降ったが、その後は晴である。

武奈ヶ岳では登山口の坊村までは曇天であったが、その後は快晴となった。

本番は、新田辺駅西口ロータリーを午前 6 時 30 分の定刻に出発、総勢 32 名の参加、雲ひとつない快晴のもと京滋 BP、名神高速、中央高速と乗継ぎ中津川 IC で高速を下車、R19 号へ、南木曾町では 7/5.6 の下見に来た時は何ともなかったのに、7/8 に発生した土石流で甚大な被害状況を見て複雑な気持ちで通り過ぎた。

今年の秋山に関する天候は、すべてがラッキーに推移してきたし「誰がいい男で、誰がいい女」なんて独り言を言いながら、今日の御嶽は目一杯楽しんでこようと木曾福島・御嶽山へと先を急ぐ。

今日、宿泊する山小屋「石室山荘」へこれから向かうとの連絡をすると「気をつけて登山して下さい」とのことであった。

登山口の御岳ロープウェイ・鹿の瀬駅には 11:20am に到着、切符と登山届を提出し飯森高原駅へと登り、高度順応のため休息と準備体操も終え、それまでの御嶽山は山頂のスカイラインも、燃え

る紅葉も見てとれ、最もいい時にこれで良かったと喜んでた。

すると剣ヶ峰の裏側に「モクモクと立ち昇る噴煙」が見えたその時、御嶽の剣ヶ峰にあのような煙が立ち上るところがあるかと聞かれた。地獄谷の一部に少しは噴煙が出ているところがあると答えた。

山頂部に白い雲がかかり雪のようなものが、初雪と喜ぶ方もいたほどだが雪にしては暖かすぎる。空は真っ黒になり雷鳴が5〜6回鳴った「きつい降雨になる」と天候の変化に戸惑っていると「灰色の湿った灰」が降り出した。この間10分位の時間であるが状況をまだ理解できなかった。やっとな噴火に気づき、山小屋に確認を取ると「登山を中止し即刻下山されたし」とのことである。駅でも「即・下山」をアナウンスしている。

ここで秋山登山を中止し、全員ロープウェイで下山をするがゴンドラの窓に降灰がへばりつき真っ黒で視界は遮られ、すでに鹿の瀬駅にも火山灰が積もっている。

バスを呼び戻し、緊急時の宿泊先「旅館・黒沢館」に全員無事に避難することができ安堵する。

二日目の登山予定を変更し、中央アルプス「恵那山」へ、広河原登山口から1,716mの台地のピーク(5/10地点)まで登り昼食、ピークハントは期待せず12時を目安にピストン下山することとした。

京田辺への帰着は19時であったが、その後の報道ニュースに接するたびに、週末でしかも超行楽シーズンの昼の11時52分とは一体どのような意味をもつ時なのかと思うと、あまりにも酷い状況があの時、あの噴煙のなかで、そして、あってはならない何かが発生していたことになる。

麓から見てとれた、あの綺麗な大自然のなかに抱かれて、たまたま、その場に居合わせて亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りすることしかできないでいる。

ヒヤリハット：御嶽山(火山噴火により飯森高原駅からロープウェイで下山)、恵那山はヒヤリハットなし。



インタビューで、「青天の霹靂(へきれき)」という言葉がよく使われる。

陳腐な言葉と流していたが、この度、私たちはまさに「青天の霹靂」と言える、「思いもしなかった」経験をした。霹靂(へきれき)という難しい言葉を、意味も分からずに使っていたが、この際、辞書で調べてみたら、雷鳴のことであった。なるほど、今回の経験は、文字面からしても、意味からしても「青天の霹靂」と言えるものだった。

これから登山を始めようと、登山の前にいつもする準備体操をしていた私たちの耳に、遠くから雷鳴が聞こえて来た。青空の下、「どうして?」と思ったが、これは雷鳴でなく噴火の爆音で、日本中を驚かせた災害の始まりであった。

9月27日(日)、「京田辺市民秋山登山」の一行32名は、朝六時半に京田辺を出発した。今年は、山の会の夏山登山、そのための訓練登山、いつも雨天曇天ばかりで、やっと恵まれた晴天に、「心も軽く、身も軽く」、貸切バスの中ははなやいでいた。バスは順調に進み、目的地の御嶽山ロープウェイ鹿島駅に11時20分に着いた。そこからロープウェイに乗って、飯森高原駅には15分で着く。高原駅の高度はすでに2150メートル。御嶽山頂上は3067メートルだから山の7合目まで登ったことになる。ここから歩きが始まるという、いつもと違った「省エネ」の楽チン登山である。こうなると百名山の登山というより、観光気分が先になり、緊張感もいつもより薄らいでいた。しかし数年前に御嶽山に登って、今回私に登山を薦めてくれた夫によると、その先には広大、雄大、変化に富んだ山容が展開する、魅力的な世界とか。期待も高まり、早く歩きたいと思ったが、ロープウェイに乗って一気に高度を稼いだので、心配なのは高山病。世話役たちの計らいで三十分間その辺りでぶらぶらして、2000メートル以上の高度に慣れるようにした。

それも終わって、登山のための準備体操をしていた時のことである。青空から白いものが降って来た。「雪だ」、「いやあられた」の言葉が飛び交う中、白いものは服の上で灰色の点々に変貌していた。噴火の灰だったのだ。驚きはしたが、鹿児島に住んでいた義妹が、桜島の火山灰で、洗濯ものも干せない、窓も開けられない、とよく言っていたので、火山にはつきものと思い、大きな異変とは思わなかった。本当に浅はかで、勉強不足。

すぐに、世話役が今晚泊まることになっている頂上付近の山小屋、石室山荘に電話をしてくれた。

「火山が噴火した。登ってくるな。」「ロープウェイですぐに降りよ。ロープウェイもそのうち止まるから」と。

「エ〜、まさかこんなことで登山は中止じゃないでしょうね」、と心の中で叫ぶ。どこまでも浅はかな私である。ついでに白状すると、噴火と聞いた時、こりゃ面白い登山になるかもしれない、と思った。

仕方なくロープウェイ乗り場に行く。好奇心の塊の仲間は、写真撮影のためか、なかなか来ない。上からたくさん登山者が降りてくるだろうに、早く乗らないと混んでくるよ、と思ったが、ふと後ろを見ると、並んでいた仲間までもどこかへ行ってしまった。結局私と山友会の仲間一人と、登山道から急遽降りて

来た二人の登山者、4人で乗り込んだ。

車両の窓に黒い雨が吹きながってくる。黒い汚点でガラスの空間がどんどん埋まっていく。ふと原爆後の黒い雨はこんなものだったのだろうか、と恐ろしい、不吉な思いが心をよぎった。しかし、この時はまだ上で起きている惨事は想像もしていなかった。麓のロープウェイの駅に着いた。駐車場に止まっている車は灰をかぶって黒ずんでいた。そこで夫に無事の電話をしたが、かからなかった。石室山荘と同経営者の麓の旅館に着いた時、テレビでニュースを見た夫から電話があった。「無事でよかった。ひどい惨事だそうだ。死者も出ているそうだ」と地元よりも詳しいニュースを伝えてくれた。それから次から次へニュースが入ってきて、深刻にならざるをえなくなり、自分が今生きている不思議さを思うようになった。

あれから一週間余り、毎日毎日悲しいニュースがテレビから流れてくる。51名の死者、12名の行方不明者。大惨事である。御嶽山頂上付近で立ち並んでいる登山者達のシルエット、芸術的な写真が映る。その何分か後に彼らに噴火が襲ったのだ。その瞬間はみんな大変だと思わなかっただろう。私だっけするように、興味を持って火口を覗いていたのではないだろうか。テレビは更に見せる、逃げまどう親子と夫婦、破壊音と悲鳴の頂上小屋、噴石や火山灰の雨、立ち上る煙とガス… これらの現場の写真は、そこにいた登山者のカメラに収められていたものだ。そしてそのカメラマンの多くは撮影の後、命を失っているのだ。テレビは恐ろしい光景を無機質に淡々と映している。

冷静に考えれば、そんな中に私が入っていてもおかしくないのだ。私たちは、あの場に着くのがほんのちょっと遅かっただけだ。ちょっとした時間差で分かれる生と死。さらに、もし噴火が一日ずれていたら、頂上付近の小屋に泊まった私たちは、あの時間は山頂付近をうろろろしていただろう。生と死の分かれ道なんてこんなものか。抗えない分かれ道。私は幸運にも一つの分かれ道をたまたまクリアーして、生の方に残っただけなのだ。

一人の若い女性が、息途絶える前、最後の力をふりしぼって両親に送ったメール、「ありがとう。ごめんなさい」を、よく交信している、中国からの留学生とスカイプで話し合った。

「何に対してありがとう、と述べている？」と尋ねる私に、留学生は「生んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。愛してくれてありがとう。楽しかった日々をありがとう。お父さん、お母さんの娘であったことにありがとう。…幸せと感謝です」

「では、ごめんなさいは何に対して？」留学生はこう答えた。「残念な気持ちです。こんなに若くて死ぬ、残念です。お父さん、お母さんよりも先に行くのは悲しいです。悲しませてごめんなさい」。

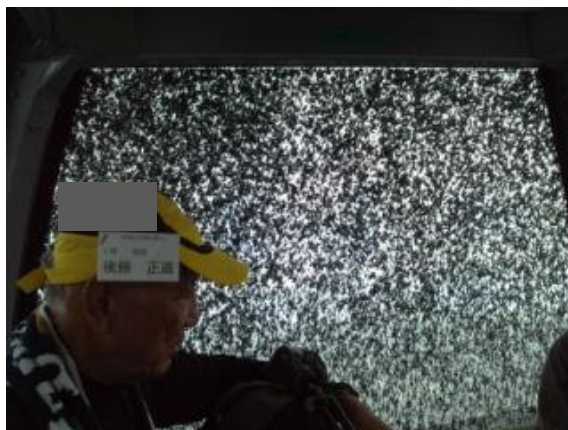
私はそれに付け加えた。「日本ではね、親より先に死ぬことほど親不幸はない」という言葉があるのよ。彼女は自分自身の悲しさ、無念さよりも、後に残る両親のことだけを思って、ありがとう、ごめんなさい、と言い残したと思うよ」、と言い添えた。

若い人、心身ともに健康な人、まだまだ続く意義深い生があったであろうに、その無念さ、愛しい人と繋がっている糸を断ち切られるつらさを想像すると胸が苦しくなる。一方一瞬にしてつぶされてしまった

家族の団欒に思いやると空しくなる。

災害の多い国、災害が次々に襲ってくる昨今、火山のこともしっかり考慮に入れなければならない。危機意識を持って、自律しなければ・・・、いつ終わるか分からない生を念頭に置いておかなければ・・・色々考えさせられた山行であった。

七合目の飯守高原から麓のロープウェイ始発駅(鹿島駅)に降りていく車両の中で。黒い雨が窓にふりかかる。



麓の鹿島駅付近上を目指して出発した時には色鮮やかなお花畑だったが、私たちが降りて来た時には、噴煙と灰にけぶっていた。

鹿島駅の駐車場灰をかぶっている車の列には驚いた。



2014年市民秋山一口感想文

一般参加者

今回久々に山友会の秋山登山に参加させて頂き、とても楽しみにしていました。まさかの御嶽山での噴火を間近に体験し、自然の怖さ、強さを再確認させられました。そしてそんなとんでもない事態の中、すぐさま下山という決断をし、宿まで手配して頂けたことにとっても感謝しています。あのままノロノロしていればもっと被害があったと思います。今回は登山をするということはありませんでしたが、一生忘れられない秋山登山になりました。又参加させて欲しいです。有難うございました。(一般：秋山香生里)

会員参加者

こんなこともあるんですね。御嶽山。こんな突然の噴火。何故？ どうして？
あなたの怒りが静まるのを待って きっと会いに来ますよ。 きっと！(会員：竹原順治)

今回は本当に体験出来ないことを体験しました。そしてスタッフの迅速な対応に感謝します。山行自体は消化不良でしたが最善の対応をして頂いたと思っています。スタッフの皆様有難うございます。(会員：秋山正子)

・今回の御嶽山登山でロープウェイを降り「サア これから登るぞ」と思った時噴火が起こりました。リーダーさん達の判断で登山中止となりました。宿に入ってテレビニュースで噴火の状況を見まして頂上辺りでは大変な事になっている事を知りました。今回、突然の噴火ということで御嶽には登れませんでした。全員何事も無く無事帰れましたのはリーダーさん達のお蔭です。感謝します。世話役の皆さん 大変お疲れ様でした。

(会員：上田秀子)

御嶽山の噴火は、リーダーの的確な判断で無事避難する事が出来ました。しかし多くの犠牲者が起っている事を思うと、偶然にすべてにおいてタイミングが良かっただけです。もし、時間や日にちがずれていたら私達が巻き込まれ、もしかしたら家族を悲しませる事になっていたかもしれません。どんどん大きくなるニュースを見て、私自身は初めて山の怖さを感じています。自然の力に到底太刀打ち出来ないだろうけど、少しでも身を守れるように事前準備を怠らず、これからも山にまじめに接していきたいと思えます。担当の方々の迅速な対処のお陰で、宿泊先も確保でき混乱もなく落ち着く事が出来ました。本当にありがとうございました。(会員：岡本綾子)

体力に不安を感じていたのが今年3回全てのトレーニング登山に参加。武奈山トレでは帰りのバスの車内で、Uさんより『班長失格！！』の烙印まで押され、嫌な印象も！！
それでも、本番では、7合目のロープウェイ頂上駅に到着するまでは、お天気にも恵まれ素晴らしい山行になると、期待を膨らませていたが、なんと！！なんと！！7年ぶりの噴火に遭遇！！予定を変更し、急遽またまたロープウェイで下山、麓の旅館に泊ることになった。翌日は時間の関係もあって、恵那山山頂の半分辺りまで登って下山し、夕方7時頃新田辺駅前に無事帰着。その後の2日間、長男家族、娘家族、旅行仲間、ゴルフ仲間、甘南備山山行の仲間や女房のお友達等から電話をいただき続け、その余波の大きさに驚いた。僕の

つたない山行歴に、予期せぬ特異な足跡を残す市民登山ともなった！！

お世話役の皆様、本当にご苦勞様でした！！そしてご一緒いただいた3班の皆様、有難うございました！！（会員：西川榮治）

9月27日～28日1泊2日の予定で長野御嶽山登山実行された、第1日目天気快晴気温23度順調に京田辺市新田辺駅前をスタートした、前半は道路、高速もすいすい新しい出会いと冒険に胸ふくらませていた、しかし、アクシデント発生する。登山口到着、駐車場は、マイカー7割位詰まっている、ゴンドラに乗り換え黒沢登山口方面（新聞）の駅に11時15分頃に着く。

2600m以上高地に適応させるため、体、心肺、装備点検、ストレッチ等準備している時、11時52分突然雷鳴り2発「光線なし」白い雲、黒い雲に上空おおわれる、火山灰が降る、全員室内に避難ゴンドラリフトに乗り下山。

大急ぎ点呼1人足りない、別の建物にいた、総隊長の号令以前に行動したのかな、ゴンドラ4人乗りだよな。

何はともあれ全員怪我もなく心肺異常もなく行動された、アップレだ。本日の為に3回のトレーニング登山を通じて行われた団体行動の厳しさ、反省、謙虚な精神、総隊長、CL、SLの力量采配が大きな力となり山友会発展の精神と感じた。（会員：上田昌宏）

今回の御嶽山登山でロープウェイを降り、さあこれから登るぞと思った時噴火が起きました。リーダーさん達の判断で登山中止になりました。宿の入りてテレビニュースで噴火の状況を見まして頂上辺りでは大変な事になっているのを知りました。

今回突然の噴火という事で御嶽には登れませんでした。全員無事で何事も無く無事帰れましたのはリーダーさん達のお蔭です。感謝します。

世話役の皆さん 大変お疲れ様でした。（会員：上田秀子）

突然予期せぬ御嶽の噴火、慌ただしく降りてきましたが帰ってから被害の拡大に他人事でなく、間違えば我が身に降りかかったと思うと不明者や家族の方への思いを身近に感じています。一日も早くと願うばかりです。

リーダーをされた後藤さん、心身共にお疲れになったと思います。

家族や友達が心配してくれてありがたいと思いました。（会員：姫島百合子）

今年の夏山は雨に祟られ・・・☹️！それならリベンジでと臨んだ鹿島槍～五竜岳も天候不順で中止・・・

☹️！今度こそはと期待通りの晴天が、しかし・・・☹️☹️☹️！多くの方が亡くなられたりケガされていることを考えると愚痴など言うのはもっての外！全員無事で帰れたことに感謝しなけりゃ罰が当たる。本当に神様ありがとうございます。皆様ありがとうございました。（会員：小川弘二）

秋の市民登山として最も衝撃的な山行になった事は間違いありません。朝会長夫妻に見送られ出発した時にはこんな状況をだれが想像したでしょう。秋晴れの快適な中をバスで木曾福島に入ってバスの中でパンフにあるサイノ河原から三ノ池の眺望を楽しみに御嶽ロープウェイ鹿ノ瀬駅から飯森高原駅（2150m）に到着した。高山調整を兼ねて準備体操開始している最中に青空に雲（？）が広がりゴロゴロ・パチパチ（？）にわか雨か？いや雪だ？いやアラレか？皆さんから盛んに声かしています。雪にしては冷たくないね。あれ帽子が白いな！ウェアが白いな！灰が降って来た！誰かが噴火したのではないか？まさか！山から下りて来た人は灰を被って青い顔して駆け込んできました。リーダーから即下山する声がかかり大急ぎでロープウェイに戻った。何もわからない登山者が車で

混乱している中いちりロープウェイに乗り込みました。窓はあっという間にどす黒く火山灰で覆われて途中で止まるのではないかと不安の中無事駅に着きました。駐車場は火山灰で様子が一変していました。でも全員がケガなく無事で下山出来たのはリーダーの適格な判断が早く皆が指示に従い行動出来たのが今回の最大の功績です。

翌月曜日に会社に出勤して会社の役員・同僚から無事帰還出来たことの声かけが沢山あって仕事より説明が忙しい思いをしました。極めつけはパートの女性達20人位が押し寄せて奇跡の生還した話を聞きたい！握手して運を分けてほしい??一躍時の人になってしまいました。本当は32人の中の強運の持ち主がおられて、分けていただいたと思っています。ありがとうございました。(会員：中田繁男)

今年の秋山に天気の心配は全く無用と元気一杯出かけましたが、残念ながら天は無常でした。と言って天を恨むわけにも行きません。亡くなった多くの人を思えば幸運児もいいところ、これ以上望むべくもありません。後数時間噴火が遅かったり、私達のスタートが早かったりしたら・・・、一体どうなっていた事やら！

想定外の事はありませんでしたが、一生忘れられない山行となりました。

幹事の皆さん、本当にご苦勞様、有難う御座いました。(会員：中廣正典)

昨年の高千穂の峰は台風、今年の御嶽山は噴火と2度に渡り秋山市民登山は自然災害に見舞われてしまいました。合わせて昨年春山も天候不良で中止となってしまいました。

自然の恐ろしさを思い知らされたこれらの山行経験はこれからの山行に教訓を与えてくれました。

天候・降水量のみではなく、どんな天変地異を想定し、何を装備準備するかは「より安全な山行」を目指す京都田辺山友会のこれからの指標にもなりそうです。

(会員：佐坂茂美)



平成26年度 市民秋山登山(御嶽山)会計報告


収入の部				支出の部			
項目	数	単価	金額	項目	数	単価	金額
(トレーニング関係)				(トレーニング)			
余剰金(収入繰入)				下見(or世話役交通費)	4	2,450	9,800
(1回目)伊吹山	1	1,400	1,400	労山保険	7	100	0
(2回目)武奈が岳	1	2,740	2,740	労山保険振込手数料	3	80	0
(3回目)甘南備・磐船	1	120	120	雑費(コピー、資料他)	2		1,080
小計①			4,260	小計①			10,880
(本番参加費関係)				(下見関係)			
一般市民	3	23,000	69,000	交通費	1	25,200	25,200
会員(注)	29	22,000	638,000	高速料金	1	8,020	8,020
キャンセル料(会員)	1	1,100	1,100	宿泊料(石室山荘)	4	8,300	37,200
キャンセル料(一般)	3	1,150	3,450	ロープウェイ代	1	9,360	9,360
小計②			711,550	雑費(食事)	0	1,000	0
				小計②			
				(本番事務・安全費関係)			
(体協助成金関係)				ホスター作成費			
総体助成金	1	40,000	40,000	名刺カード類他	1	4,060	4,060
指導者謝金	1	10,000	10,000	説明会資料作成費	1	3,255	3,255
小計③			50,000	労山保険(一般市民)	1	380	380
雑収入(利息他)④			0	行事主催者賠償保険	64	40	2,640
				通信費(世話役)			
				雑費(土産代)			
				雑費(事務消耗品費・その他)			
				小計③			
				(本番交通費関係)			
収入合計(①+②+③+④)…(イ)			765,810	御嶽ロープウェイ	32	2,340	74,880
				平安バス代金			
				高速料金			
				運転手宿泊料			
				運転手謝礼			
				小計④			
				(宿泊関係)			
				宿泊料(黒澤館)			
				飲み物他			
				小計⑤			
				(その他)			
				指導者謝金			
				小計⑥			
支出合計(①+②+③+④+⑤+⑥)…(ロ)			765,333				
				(不足金)			
収支合計=支出合計…(イ)-(ロ)			477				

上記の通り報告します。

京都田辺山友会 秋山担当

平成26年10月 5日

会 計

小川 弘二 

世話役代表


後藤 正道 

会計監査報告

市民秋山登山(会計収支報告)を帳票に基づき監査した結果、収支共に適正に処理されたことを認めます。

平成26年10月 8日

会計監査(会員代表)

金本好彰 

※ 指導者謝金は山友会会計に納金。